



バーンズデー

鈴木砂羽

坂本 澤香

菊池麻衣子

菅原大吉



企 画：兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
企画協力：兵庫県教育委員会
制 作：東映株式会社

■上映時間 37分【C#7173】
DVD 80,000円(税込 88,000円)
字幕・副音声版付き

性の多様性を認め合う ～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～

今回の作品のテーマは、「性の多様性を認め合う～誰もが自分らしく生きられる社会をめざして～」です。

性的少数者については、依然として社会理解が進まず、偏見や差別、配慮に欠けた対応などで、自身の思いや悩みを打ち明けることが難しく、周囲の無理解に苦悩し、生きづらさを感じている状況など様々な問題があり、深刻な人権問題になっています。一方、性的少数者であることを打ち明けられた家族や友人等は、既成概念による偏見や知識不足によって、理解しようと向き合う前に混乱や抵抗感にとらわれてしまうことが多くあります。

性の在り方は多様で一人ひとりの人権に関わることであるため、性的少数者の存在や悩みに気づくことが大切です。この作品を性的少数者について理解するきっかけとし、その多様性を認め、互いの人権を尊重することは、すべての人が自分らしく生きていける社会につながっていきます。そのような社会の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。



あらすじ

羽野美由紀は、20歳になる娘の笑花が“女らしい”振舞いをしないことが不満だった。

笑花は誕生日の夜、自分がトランスジェンダー男性（自認する性が男性）であることを両親に打ち明ける。性別違和ゆえに小さい頃からずっと辛かったこと、将来は手術もしたいと考えていること、そして、これからは名前を「尊」に変えて生きていくことを意を決して告げる笑花。突然のカミングアウトに動揺する美由紀たち。尊（以降は表記を「尊」に統一）の気持ちを受け止めることができない美由紀は、翌日から尊を避けるようになる。

上司の玉木や同僚からの理解もあり、職場では自分らしく働ける尊。一方、誰にも相談できずに悩んでいた美由紀は、何かを抱えていることを同僚の祐奈に見透かされ、友達の娘がということにして相談し少し気持ちが軽くなる。

数日後、先輩が、尊のことをアウティング（本人の性の在り方を同意なく第三者に暴露）してしまう。不安と恐怖から早退する尊。ただ事ではない様子で帰宅してきた尊を見た美由紀は、心配ゆえに、女性のままでいるように懇願し、かえって尊を傷つけてしまう。尊は家を飛び出していく。

上司の玉木の協力もあって、尊は無事に見つかり、安心する美由紀。そして、玉木や祐奈の考え方に触れ美由紀は、次第に自分の心と向き合っていく。

※偏見や差別の厳しい実態を伝えるためにあえて、差別的な表現が使われている場面があります。性的指向や性自認のカミングアウトは、あくまで本人が決めることであり、本作品は、カミングアウトの推奨を意図したものではありません。

